

ことば遊び

著者	江口 一久
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	45
ページ	626-628
発行年	2003-12-26
URL	http://doi.org/10.15021/00001828



こ
と
ば
遊
び

三人のなにがあってもすいてくれる人と九つの女の恥の心

さて、この世でなにがあってもすいてくれる人がいる。三人はなにがあってもすいてくれる。

さて、(あとでいうが)三人の人たちはお金でかわなければならぬ。(いまからいう)三人の人たちはお金でかつても、かわなくても、おまえさんをはなさない。母親はなにがあっても、おまえさんをすいている。娘はなにがあっても、おまえさんをすいている。おまえさんの姉妹はなにがあっても、おまえさんをすいている。この三人にはなんの下心もない愛がある。三人はお金でかわなければならぬ。おまえさんの父親とおまえさんの息子とおまえさんの兄弟だ。おまえさんが、この三人の役にたたないと、三人はおまえさんをすいてくれない。この人たちの愛情はお金でかわなければならぬ。

さて、しかしながら、父方のおじはおまえさんの役にはたたないし、おまえさんをまったくすいてくれない。おじの子も、おまえさんをすいてはくれない。腹違いも兄弟も、おまえさんをすいてはくれない。

男というものは、主がつくられ、この世にやってきた日から、九つの恥の心をもってきた。男はその恥の心をもったまま死ぬ。

男の子は一つの恥の心をもってくる。男は一つの恥の心をもつて死ぬ。女も娘も、アツラーにつくられ、九つの恥の心をもつてこの世にやってくる。気をつけないと、女は死ぬとき、たった一つの恥の心すらのこさない。それはどういふことだろう。女が年頃の娘のとき、わかるとおもうが、九つの恥の心がある。結婚して、男のところへ嫁入りする日、水浴びをすると、三つの恥の心が落ちてしまう。女には六つの恥の心がのこる。三つの恥の心は、女がはらんで、子どもをうんだ日に、おちてしまう。のこるは三つの恥の心。女が浮気をする日、すなわち、よその男とねる日、結婚していない男とねる日、三つの恥の心はおちてしまう。これで、九つの恥の心はおしまになる。

男はなにがおこつても、恥ずかしいといい、にげていかない。男はなにがおこつても、恥ずかしいといい、人にものをやらないといふことはない。男はころされかけても、なかないといふ。わかるな。男は一つの恥の心はのこす。

でも、女の九つの恥の心は、ときとともに、みんななくなってしまう。

(なにがなくても、愛するといふのは、財産とかかわりなく愛するといふこと。お金や財産目当てに愛してないことをいう。母親、姉妹、娘は財産の介在なくして、子どもや、兄弟、父親を愛す。男と女について、恥の心ががうといふのは、男性中心社会における、

男性の身勝手な言い分ともいえる。女性のなかにも、「男の心をもつ人」といわれる人がいる。この人は男性同様、恥の心をしっかりともっている人だとおもわれている。

(一九八三年一月一九日、語り手 ハンマドゥ・ハマ・ガープド、
ガウンデレにて)

287 三つの理由で三つのことをおそれよ

三つの理由で三つのことをおそれよ。三つのことをおそれるな。でも、三つのことをおそれよ。三つの理由で三つのことをおそれるな。多言をおそれるな。真実をかたる人をおそれよ。力をもっている人をおそれるな。きめたことをする人をおそれよ。弓の上手な人をおそれるな。矢毒をつくるのが上手な人をおそれよ。というの
は、弓さばきが上手でも、矢毒がきいていないと、相手をころせな
いからだ。村長をおそれよ。村長と王さまがいっしょにいるといけ
ないからだ。ちいさな川をおそれよ。というの、ちいさな川も、
おまえさんをおおきな川にひっぱっていくからだ。学生をおそれな
さい。というの、その先生のためだ。

三つのことを信じるな。三つのことを信じよ。おまえさんの義理
の父親（もしくは霧の母親）の愛を信じるな。一度の食事で安心す
るな。一年のあいだ食事ができるなら安心せよ。一年は一度にまさ

る。というのは、おまえさんに食べ物があっても、村全体になかっ
たら、おまえさんの食べ物はおまえさんの役にはたさない。村人に
自分のところに食べ物がまったくないことをみせてやったほうがよ
い。でも、もし、おまえさんにはあるが、みんなのところはまった
くなかったら、みんなは、夜にやってきて、おまえさんをころして
しまುದらう。村中どこにいつても、食べ物がなく、おまえさんだ
けがもっていたら、おまえさんはおちついて、食べ物をたべること
ができるか。一度の食事というのは、力が無い。

さて、おまえさんの体の丈夫さを信じるな。世の中がおちついて
いることは、体が丈夫なことにまさる。争いが無いなら、おまえさ
んが死んでも、人びとはおまえさんを埋葬してくれるだろう。病氣
になっても、よこになっておられる。もし、おまえさんのすんでい
る地方に争いがおこったら、おまえさんは死んでしまう。おまえさ
んが死んでも、人びとはおまえさんを埋葬してはくれないだろう。

(一九八三年一月一九日、語り手 ハンマドゥ・ハマ・ガープド、
ガウンデレにて)

四つのカ・クラスのもの、四つのング・クラスのもの

四つのカ・クラスのものには役にたつ。四つのング・クラスのものには役にたたない。役にたつものは、四つ。役にたたないものは、四つ。カ・クラスのもので役にたつものは、皮でできた袋（シガフアッカ）、畑（シゲサ）、放牧（シガイナカ）、人につかえること（ファード）。四つの役にたたないものは、女であること（シデワー）、非フルベ族であること（カーダーク）、若さ（シデルカーク）、不信心（ケーフェラーク）。女であることとは、女めしいこと。それは不幸なだけだ。

（フルフルデ語の名詞はすべて、二十五の名詞クラスと称される範疇に属する。どちらかといえば、カ・クラスのことばはほしい具体的な、ング・クラスのことばは抽象的な概念のものがおおい。なお、原文では、アラビア語のケーフ、つまり、ローマ字のkをもつて、カ・クラスとング・クラスを代表させている）

（一九八三年一月一九日、語り手 ハンマドゥ・ハマ・ガープド、
ガウンデレにて）